

統合システムモデル 下肢

足部の可動性やコントロールの機能障害は、全身の機能に影響を及ぼす可能性があります。本コースは身体で最適でない状態となっている部分がどう影響し合っているか、足部や膝、骨盤のしつこい痛みについて、特に足部に焦点を当てて学びます。

統合システムモデル the Integrated Systems Model (ISM) の特徴は、最適でないアライメント、バイオメカニクス、コントロールを示す複数の部位の関係性を考え、どこに介入するのが最善であるか決定するという点です。

「ドライバーを見つける」と呼ばれる過程は必ず必要となる作業で、ドライバーは個人それぞれに異なります。意味のある課題の分析とプライマリードライバーというのが、ISMの基礎をなすものです。

鍵となるこれらのコンセプトについて、本コースでは足部に特化した内容を学習します。それぞれのスクリーニング課題でドライバーを決定すること、またベクトル分析を使って、根底に潜むシステムの機能障害（関節系、神経系、筋膜系、内臓系）を確認することを学びます。具体的にどこをリリースし、アライメントを整え、働かせ、そして運動させるのか（RACM）、治療内容を組み立てるための技術を用います。

本コースでは、視覚的、徒手の評価及び治療と並び、複数の所見のクリニカルリーズニングにも焦点を当てます。実技とディスカッションにたくさんの時間を割いて、これら2つの臨床的技術ツールの学習に多くの時間を費やします。

統合システムモデル

統合システムモデルは、臨床家の知識（エビデンスと臨床的専門技能）を整理し、治療に対して最善の決定をなすためのクリニカルリーズニングの技術を展開するために提唱されたフレームワークである。本コースは日本ですでに開催されたISMを用いたコースで学んだISMの原理に基づいて進められるものである。そのため、過去に他のISMのコース（講師 Diane Lee）をすでに受講した方のみ参加できる（Thorax-Pelvis 必須）。

コースの目標:

- 患者の問題点について根底に潜むドライバーを見つけるため、統合システムモデルがどのように役立つことができるか理解する- 痛みが原因なのか、安定性の不足が問題なのか、パフォーマンス低下あるいは能力障害なのか。
- 選択した課題において患者が機能とパフォーマンスに対して最適な戦略を取っているかどうかを判断するためのテスト、つまり膝、腓骨が関係する関節、足部（後／中／前足部）に対する重要な臨床テストや、複数の機能障害の所見が見つかった場合「プライマリードライバー」や最初に治療対象とすべき機能障害をどう見つけるかを学ぶ。
- 膝や足部が最適な機能を損なう原因となっているプライマリードライバー、または2番目に重要なドライバーや共ドライバーを決定するために必要なクリニカルリーズニングの過程を学ぶ（内省のスキルを養う）。
- 決定したプライマリードライバーに関して関節系、神経系、筋膜系を判断するための重要な臨床テストを実習する。
- プライマリードライバーについて、様々なシステムの機能障害に焦点を当てた介入を処方するためのクリニカルリーズニングの過程を学ぶ（関節系や神経筋膜のリリーステクニック、足部に対するベクトルテーピング）。
- リリース、アライメント調整、コネクト、動きの学習といった下肢がより良い機能とパフォーマンスを回復するための治療テクニック及び動きのトレーニングを実習する（Diane Lee & Associates 所属 Rachael Corbett考案の足部トレーニングの4段階）。

本コースでは、コース後に日本語でのオンラインビデオサポートのために実技デモをビデオ録画します。コース後、システムが整い次第、自由にオンラインサポートにアクセス可能となります（コース受講者のみ）。